

巻頭言

「変化の時代を生き抜く力を育む」

釧路市教育委員会 学校教育部長

齋藤 優治

現代社会は、グローバル化や情報化、技術革新などが急速に進展しており、こうした変化が身近な生活を含め、私たちの社会全体に大きな影響を与えています。こうした激動の時代を子供たちが自らの力で生き抜き、社会の担い手となり得る基礎・基本となる力、いわゆる「生きる力」を育てていくことが、現在の学校教育に課された使命ではないかと考えています。

このような中で、釧路教育研究センターでは、釧路市における教育目標の実現と教育推進の重点課題に対応するため、3つの研究グループが、今日的な教育課題に関する実践的な調査・研究を推進しています。

学習指導・開発研究グループでは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた算数・数学科の「釧路市が目指す授業」の在り方をテーマに研究を進めています。子供たちが将来社会を自らの力で生き抜く上で基盤となる基礎学力の定着に向けては、全国学力・学習状況調査や釧路市標準学力検査等の結果から着実に成果が上がっている一方、学校間格差とともに、小・中学校での接続において課題を残す状況が続いており、小中連携を核とする教員個々の授業力向上が喫緊の課題となっています。本研究における、小・中学校の算数・数学科の授業づくりについての短編動画とリーフレットの作成・発信は、釧路市が目指す授業の具体的指針を示した点において、極めて重要な価値を持つものだと思います。

子ども支援研究グループでは、「児童生徒が将来において社会的な自己実現ができるような資質・能力・態度を形成するように働きかける教育相談の在り方」をテーマに研究を進めています。学校や家庭環境の変化、人間関係の複雑化、情報過多による混乱などが、子供たちの心身に影響を与えています。このような状況下で、教育相談は、子供たちがこれらの課題を乗り越え、社会的な自己実現を達成するために、重要な役割を果たします。本研究では、教職員の教育相談のスキル向上に貢献し、具体的かつ実践的な内容を盛り込んだリーフレットを作成・発信することは、大変意義の深いことだと考えます。

郷土読本・地域学習研究グループでは、「郷土読本を効果的に活用したふるさと教育の在り方」についての研究および、「郷土読本『くしろ』の内容の編集・改訂」を中心に活動を進めています。釧路市におけるふるさと教育は、地域社会の担い手を育成するという重要な役割を担っています。豊かな自然環境や歴史・文化を活かした教育活動を通して、子供たちが地域への愛着と誇りを育み、地域社会に貢献する意欲を高めていくことが重要です。本研究が、小学校社会科における釧路湿原について学ぶ新たな単元を構想し、研修講座において公開することを通して、釧路を生きる子供たちにとって貴重な価値を広げたことは、大変素晴らしい成果だと思います。

各研究グループの研究成果については、2月の研修会で報告され、今後市内の先生方に情報共有される予定です。釧路教育研究センターの研究が、今後とも市内各校の教育研究と実践に影響を与え、市内の教育課題の解決につながっていくことを期待しています。

各研究グループの今年度の活動報告

【学習指導・開発研究グループ】

今年度、学習指導・開発研究グループでは、「釧路市内各校における学習指導上の課題を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた算数・数学科の授業の構築」を目的に研究を進めて参りました。推進にあたっては、全国学力・学習状況調査や釧路市標準学力検査（CRT）の結果をもとに、以下3点の活動を行いました。

1つ目は、各調査から課題が見られた単元の短編動画による授業提案です。中学校数学科第1学年「文字と式」「方程式」「比例と反比例」のそれぞれの単元における、ポイントとなる1単位時間の短編動画を作成し、釧路市内の先生方に配信しました。

2つ目は、「算数・数学科授業づくりリーフレット」の作成です。このリーフレットでは、小・中学校で共通する授業づくりにおけるポイントや授業の基本的な流れ（導入・展開・終末）について、小・中学校それぞれの実践を、板書を示しながら紹介しました。

3つ目は、釧路教育研究センター研修講座「小中連携による算数・数学科の「釧路市が目指す授業」」における授業提案です。小学校第4学年「面積のくらべ方と表し方」と中学校第1学年「比例と反比例」（事前配信）の2つの授業を通して、系統的な指導に着目した算数・数学科の「釧路市が目指す授業」の在り方について提案しました。研究協議では、参加していただいた先生方から2つの授業や校種間連携・協働の在り方について、多くのご意見をいただくことができました。北海道教育大学釧路校の早勢裕明教授からも大変貴重なご助言をいただくことができました。

今年度は研修講座での授業提案だけでなく、動画やリーフレットも多く発出させていただきました。先生方には、ぜひご活用いただくとともに、日々の実践の一助になれば幸いです。

学習指導・開発研究グループリーダー 下山 智之（鳥取西中学校）

【研修講座報告】

研修講座名	実施日	場所	受講者
小中連携による算数・数学科の「釧路市が目指す授業」	令和6年12月23日(月)	芦野小学校	69人

講座の内容

- 【授業公開】 芦野小学校4年 算数科「面積のくらべ方と表し方」（授業者：尾形加奈子教諭）
【授業公開】 桜が丘中学校1年 数学科「比例と反比例」（授業者：高木 優 人教諭）
【説明】 算数・数学科の「釧路市が目指す授業」提案
【協議】 公開授業の検討

成果	課題
・ 本時の課題解決に迫るために、教師からの意図的な発問や問い返しがたくさんあった。 ・ できる子の発表会にはならず、全員参加で学習する姿が素晴らしかった。 ・ 小・中学校の授業公開により、子供たちの姿を通して、指導過程をそろえることが安心して学ぶことができる環境づくりにつながるなど、小中連携の意義を改めて認識することができた。	・ もっと子供に任せる場面を設定してもよいのではないか。 ・ みなして考える問題は小6でも設定されている。小・中学校のつながりを意識して、子供の思考をファシリテートしていくとよい。 ・ 動画配信だと事後研が進めづらい。小・中学校ともに午前午後に分けて同日公開ではどうか。

受講者からのアンケートより

- ・ 算数における小・中学校のつながりや本時の課題を明確にする方法、子供同士が伝え合うことによる学びの質を高める意義を学びました。
- ・ 小・中学校に関わらず、大切なことは子供の言葉で説明させることが大切であると学びました。また、意図的な問い返しをすることで、子供が自らの学びの変容を自覚できることを学びました。

【子ども支援研究グループ】

子ども支援研究グループは、釧路市内各校における子ども支援に関する課題を踏まえ、いじめ、不登校への対応、個に応じた指導の進め方等について、調査、研究し、釧路市における子ども支援の在り方について、実践を蓄積しその成果を発表すること」を目的として研究を進めて参りました。文部科学省発行の『生徒指導提要』を参考に「教育相談」に着目し、「教師は経験則や思い込みで教育相談を行っているのではないだろうか」という課題意識から研究をスタートさせました。現在は「児童生徒が将来において社会的な自己実現ができるような資質・能力・態度を形成するように働きかける教育相談の在り方」を研究テーマに掲げています。

研究活動では、小学校と中学校の面談方法の違いや先生方が抱える課題を把握するため、研究グループ内での交流や各校の先生方へインタビューを実施し、全国の教育相談に関する研究事例を調査し、情報収集と整理を行いました。さらに、市内小・中学校の先生方へのアンケートを実施し、教育相談に関するニーズを具体的に把握しました。これらの情報を分析・整理することで、研究の方向性を明確化しています。

研究のゴールは、学校で取り入れたいくなるような実践事例や、学級で活用したくなる教育相談の技術・技法、面談時の場所設定や相談環境のつくり方などを集約した「教育相談リーフレット」を発信し、先生方の教育活動をサポートすることです。このリーフレットは、先生方が日々の教育活動で悩んだ時や教育相談前にいつでも手軽に参照できる身近な資料となることを目指しています。学級経営や生徒指導で困難を感じた際、または教育相談の前に、少し立ち止まって参考にさせていただき、先生方のお役に立てることができれば幸いです。

子ども支援研究グループリーダー 齋藤 政人（幣舞中学校）

【郷土読本・地域学習研究グループ】

郷土読本・地域学習研究グループでは、「郷土読本を効果的に活用したふるさと教育の在り方について研究するとともに、関係機関と連携しながら、郷土読本『くしろ』の内容の検討を行うこと」を目的とし、研究を進めてきました。

今年度は、以下2点の活動を行いました。

1つ目は、「ふるさと教育の研究」です。11月に研修講座「地域への愛着をはぐくむ「ふるさと教育」の充実」を開催しました。今回の講座では、第4学年社会科「昔から今へと続くまちづくり」の授業を公開しました。この単元で扱う内容は、「釧路市のまちづくり」、「漁業の発展」、「阿寒地域のまちづくり」、「音別地域のまちづくり」の4つがあり、その中から1つを選択して学習を行います。それらの4つに加えて「釧路湿原」を扱いたいと考え、授業実践を行いました。また、授業プランについても本グループで協議を積み重ねた上で提案させていただきました。釧路湿原の学習資料を、保全に関わる機関の一つである釧路市環境保全課との連携により作成しました。授業で活用いただけるよう、授業プランと資料をロイロノートの資料箱で公開しています。次年度から「昔から今へと続くまちづくり」の単元では、市内各校で「釧路湿原」の授業を選択できるようにしたので、活用していただけると幸いです。

2つ目は、「郷土読本『くしろ』の部分改訂」です。社会科の教科書改訂に合わせて、ページのレイアウトを中心に編集作業を進めてきました。令和7年度版の大きな変更点は、主に郷土読本を利用する単元において、各ページの左側に学習段階が分かる「タブ」を新たに付け加えたことです。その他、数値の情報更新等を行いました。ロイロノートの資料箱についても随時更新を行い、先生方が「探しやすい」「見やすい」「使いやすい」資料を目指してレイアウトなどを変更しました。次年度も引き続き、より便利で活用しやすい郷土読本となるよう、編集作業を行っていきます。

本グループでは、次年度も引き続き、子どもたちがふるさと釧路への思いを高めることができるよう、研究、啓発を行っていきます。

郷土読本・地域学習研究グループ委員 松浦 季輝（光陽小学校）

【研修講座報告】

研修講座名	実施日	場所	受講者
地域への愛着をはぐくむ「ふるさと教育」の充実	令和6年11月28日(木)	清明小学校	19人

講座の内容

- 【授業公開】清明小学校4年1組社会科「昔から今へと続くまちづくり」（授業者：江渡明香教諭）
 【説明】①キャリア教育とふるさと教育の一体的な充実について（説明：佐藤美里指導主事）
 ②釧路における「ふるさと教育」の実践紹介（説明：郷土読本・地域学習研究グループ）
 【協議】公開授業の検討、自校のふるさと教育の実態交流

成果	課題
・釧路湿原に関わる社会科の公開授業を通して、ふるさと教育の具体的な実践について紹介することができた。 ・ふるさと教育の視点をもって授業をすることで、児童生徒に地域への愛着を育むことが可能であることを示すことができた。	・釧路の先生方に「ふるさと教育」という視点をもって日々の授業を行ってもらうための方策が必要である。 ・ふるさと教育を広く実践するためには、地域の人材やネットワークの情報を整え、利用しやすくする必要がある。

受講者からのアンケートより

- ・ふるさと教育からキャリア教育への発展の重要性を考えることができました。湿原を取り上げた今回の授業計画や準備は素晴らしく、子供が関心を高く持って学習している様子があり、とても勉強になりました。
- ・郷土読本で作成した「ひと・こと・もの」リストや、教育委員会の「コネクト」のように、つながるネットワークを構築し、広げていくことが、釧路市でふるさと教育を広げていく上で必要なことではないかと考えました。

釧路教育研究センター 教育講演会



令和7年2月8日（土）に、コーチャンフォー釧路文化ホール大ホールにて「教育講演会」が行われました。今年度は、元北海道日本ハムファイターズの選手であり、現在は野球解説者として活躍する鶴岡慎也氏をお招きし「夢を叶える準備」という演題で、ご講演いただきました。

プロ野球選手になるという夢を、社会人野球を経て掴み、2022年に現役を引退されるまで長きにわたって球界で活躍された経験から、導く側、導かれる側、支える側それぞれが、相手へのリスペクトを忘れずコミュニケーションを図ることの大切さについて教えていただきました。また、コーチとして選手を導くことの大変さにも触れられ、昔と今では指導理論が変わってしまったため、自ら学ぶ必要があったと振り返られていました。常に学び続ける姿勢は、今日の教育にも通じるものがあります。明日の自分ではなく数年後の自分のためにと、日々努力を重ねる、ダルビッシュ有投手や大谷翔平投手の姿に刺激を受けたとお話しされていた鶴岡氏。謙虚な姿勢を忘れず、様々な相手へのリスペクトを大切に、他者から学び続けることの重要性を改めて実感できた貴重な機会となりました。

トークショーでは、ご来場された皆様からの質問に答えていただく場面を設けていただきました。とても和やかな雰囲気の中、緊張する場面の乗り越え方や若者のメンタルサポート等の質問に、時にユーモアを交えながらご回答いただき、実りの多い時間を過ごすことができました。